

福島のおゆき国会日誌

<通常国会開会 150日間、張り切って行動します>

23日、いよいよ令和5年の通常国会が始まりました。国会開会日は、議員のみが通ることができる正面玄関で名刺を渡して受付をし、登院ボタンを押します。そして、天皇陛下をお迎えします。国民の皆さんの負託に応えなければならない、と背筋が伸びる思いになります。



国会の開会にあたって、旧統一教会とのズブズブの関係が明らかになっているにもかかわらず、議長立場を利用して説明から逃げ続けている細田博之議長への対応を求めてひと悶着があり、すべての野党・会派が集まって対応を協議いたしました。議長としての職務遂行能力がないなら、一刻も早く辞任すべきです。

この通常国会に臨む思いをYouTubeにて語っておりますので、ぜひご覧ください。



<防衛三文書ヒアリング 防衛費増額が国力増進につながるのか>



24日、予算委員会等での審議に向けて会派として重要課題についてのヒアリングを行いました。

この国会の最大の焦点である、いわゆる防衛三文書（国家防衛戦略、国家安全保障戦略、防衛力整備計画）について内閣官房国家安全保障局、防衛省から説明を受け、これについて議論をいたしました。

この防衛三文書では、日本の経済成長と防衛力の関係については、何ら分析されておられません。どこかの国を仮想の敵とする防衛力の整備は、経済的な成長とトレードオフになる可能性もあります。

これまでにない厳しい安全保障環境の中、精いっぱい背伸びをしようとしているのですが、私にはかつての大戦を負けた「科学なき国の最期」という宿痼がこの防衛三文書にも如実に現れているように思います。おそらく、このまま防衛予算を増やしていっても、日本の国力を増進させることにはつながらないでしょう。

私たち有志の会は、イデオロギーにとらわれない、本質的な議論をしてまいりたいと思います。

<有志の会 予算案ヒアリング 財源先食い予算>

26日は朝から令和5年度予算案の全体像についてヒアリングを行いました。財務省以下各省庁から担当者が来て、大部屋がいっぱいになってしまいました。



来年度予算案は前年比6.8兆円増の114.4兆円と史上最大規模です。その大きな要因は、防衛関係費の大幅な増大（4.7兆円）によるものです。その財源として外国為替資金特別会計の剰余金の繰入や決算剰余金の活用などを見込んでいます。

しかし、これらは本来決算を行って確定するものであり、予算案当初に見込むものではありません。リーマンショックや新型コロナの蔓延などのような突発事態で多額の補正予算を組まなければならない時の原資となるのがこれらのお金なのです。

いざという時に活用されうるものを先食いして予算案を作るというのは、財政のレジリエンス（強靱性）を著しく失わせるものと言わざるを得ません。日本は、武力攻撃でやられる前に、経済の突発時に財政的な対応ができなくてやられる可能性もあるのです。防衛力だけを強くしても、国が守られるわけではありません。総合的な国力を考えるのが本来の政治の役割なのではないでしょうか。